

2024年度(第53期)決算について

- ・輸送人員は前年度比5.6%増の40,780千人
- ・営業収益は前年度比5.2%増の140億4百万円
- ・営業利益は前年度比10.2%増の33億4千6百万円
- ・当期純利益は前年度比56.0%増(※)の29億2千2百万円

※当期純利益の大幅増の主な要因は、繰延税金資産の見積もり増加等に伴う法人税等調整額の変動(△8億2千4百万円)によるものです(この法人税等調整額の変動を除いた場合の前年度比は12.0%増となります)。

1. 2024年度決算の概要

当期におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善し個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、緩やかな回復となりました。一方、物価上昇やアメリカの今後の政策動向の影響など、先行きについて注視が必要な状況にあります。

こうした状況の中、鉄道事業者にとって最大の使命である「安全」「安心」「安定」輸送を継続的に提供する取り組みとして、自動列車停止装置の改良(C-ATS化)工事や各種設備の更新工事を実施しました。

増収に向けた取り組みについては、保有資産の有効活用を推進するとともに、記念乗車券の発売や多数のイベントを開催したほか、ホームページのリニューアルなどによる情報発信の強化を行い、需要喚起に努めました。また、沿線自治体やUR都市機構などと連携した様々な沿線活性化施策を実施するなど、北総エリアの魅力向上や運賃値下げによる効果の発現を目指した取り組みを精力的に推進しました。

以上により、当期の輸送人員は前期に比べ2,154千人、5.6%増の40,780千人となりました。

表① 輸送人員と旅客運輸収入

		2024年度	前年比
輸 送 人 員	定 期 外	千人 14,121	% 4.3
	定 期	26,659	6.3
	合 計	40,780	5.6
旅客運輸収入計		百万円 11,044	% 4.9

当期の営業収益は、輸送人員の増加などにより、前期に比べ6億9千1百万円、5.2%の増収となる140億4百万円となりました。

営業費については、安全の確保を前提に最大限のコスト削減に努めたものの、賃上げによる人件費の増加や施設の老朽化、物価高騰による修繕費の増加により、前期に比べ3億8千1百万円、3.7%の増となる106億5千7百万円となりました。

以上により、営業利益は33億4千6百万円と前期に比べ3億1千万円、10.2%の増益、経常利益は30億3千2百万円と前期に比べ3億3千万円、12.2%の増益となりました。

これから法人税等を差し引いた当期純利益は、29億2千2百万円と前期に比べ10億4千9百万円、56.0%の増益となりました。なお、このうち8億2千4百万円が、繰延税金資産の見積もり増加等に伴う法人税等調整額の変動によるものとなっております。

表② 比較損益表

(単位:百万円)

	2024年度	2023年度	差	増減率 (%)
営業収益	14,004	13,312	691	5.2
営業費用	10,657	10,276	381	3.7
営業利益	3,346	3,036	310	10.2
経常利益	3,032	2,701	330	12.2
当期純利益	2,922	1,872	1,049	56.0

2. 今後の課題への取り組み

当社は、関係者の長年にわたるご支援により、2022年度に繰越損失を解消し、運賃値下げを実施しました。一方で、未だ約496億円という巨額の有利子負債を抱えているほか、人件費や物価の上昇など、今後も厳しい経営状況が続くものと見込まれます。また、テレワークの浸透や千葉ニュータウンを中心とした沿線の高齢化の進展等により輸送構造が変化していることから、輸送需要の先行きも懸念されるところです。

こうした状況を踏まえ、当社は今後の課題について以下の通り取り組んでまいります。

(1)安全に対する取り組みの強化とサービスの向上

安全の確保は鉄道会社にとって最大の使命であり、事業存立の基盤でもあることから、安全管理体制の更なる強化を図ってまいります。

また、お客様へのサービス向上については、京成グループが総力をあげて取り組んでいるBMK(ベストマナー向上)推進運動に積極的に参加していくことなどにより、お客様から信頼され、選んでいただける鉄道を目指してまいります。

(2)財務体質の健全化

当社の使命である「安全」「安心」な輸送サービスを将来にわたって「安定」的に提供していくためには、今後とも相当規模の安全投資、サービス改善投資を行っていく必要があり、そのための資金需要の増大は避けられない状況にあります。

こうした状況を見据え、今後とも一層の経費の節減・業務の効率化を進めるとともに、巨額の有利子負債に鑑み、金利動向に留意しつつ円滑な資金繰り確保のため、財務体質の一層の健全化に向けて引き続き取り組んでまいります。

(3) 次の時代に向けた新たな経営の推進

当社は今後の事業運営について、人口減少や輸送構造の変化に的確に対応すべく、2022年度に「自律」「戦略」「連携」を基本方針とする成長戦略ビジョン『Next Hokusō』を策定しました。この中で、個別の戦略として「輸送サービスの向上」「トップライン(売上)を上げる」「沿線事業基盤の拡充」「効率的な事業推進」「人材戦略・企業PR戦略」の5つの柱を設定しており、これらの戦略に基づき設備投資を中心とした安全施策、人材確保の強化や人材育成制度の導入などによる人事施策、増客・増収に資する営業施策や沿線活性化施策などの各種施策を推進することで、沿線関係者の皆様とも連携しながら「鉄道事業+α」の会社を目指してまいります。

以上の通り、当社が果たすべき使命・課題について、今後も全社一丸となって取り組んでまいります。

北総鉄道株式会社 2024年度(第53期)決算資料

貸借対照表

(2025年3月31日現在)

資産の部		負債及び純資産の部	
科目	金額	科目	金額
資産の部	百万円	負債の部	百万円
流動資産	9,420	流動負債	10,944
現金及び預金	948	短期借入金	1,561
未収運賃	962	一年内リース債務	16
未収金	1,736	未払金	6,473
貯蔵品	333	未払消費税等	139
その他の流動資産	5,438	未払法人税等	618
		未払費用	159
		預り連絡運賃	613
		預り金	12
		前受運賃	1,088
		前受収益	52
		賞与引当金	182
		その他の流動負債	26
固定資産	80,088	固定負債	48,580
鉄道事業固定資産	78,067	長期借入金	14,429
各事業関連固定資産	841	リース債務	23
建設仮勘定	123	長期未払金	30,667
投資その他の資産	1,056	退職給付引当金	2,896
繰延税金資産	1,056	役員退職慰労引当金	26
		その他の固定負債	538
		負債の部合計	59,525
		純資産の部	
		株主資本	29,983
		資本金	24,900
		利益剰余金	5,083
		その他利益剰余金	5,083
		繰越利益剰余金	5,083
		純資産の部合計	29,983
資産の部合計	89,509	負債及び純資産の部合計	89,509

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

科目	金額	
	百万円	百万円
鉄道事業営業利益		
営業収益	14,004	
うち旅客運輸収入	11,044	
営業費	10,657	
鉄道事業営業利益		3,346
営業外収益		
受取利息及び配当金	22	
その他の収益	88	111
営業外費用		
支払利息	400	
その他の費用	25	425
経常利益		3,032
特別利益		
工事負担金受入額	1	1
特別損失		
固定資産圧縮損	1	1
税引前当期純利益		3,032
法人税、住民税及び事業税	944	
法人税等調整額	△834	
法人税等計		109
当期純利益		2,922

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。